

しつもんしたり，こたえたりしながら「これは，なんでしょう」ゲームをしよう

中心学習材 「これは，なんでしょう」(光村図書1年下)

〈育てたい主となる能力〉

- ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め，必要な事柄を思い出すこと。
(話・聞ア)
- ◎互いの話を集中して聞き，話題に沿って話し合うこと。
(話・聞オ)

〈単元を貫く言語活動〉

- ◎「これはなんでしょう」ゲームをする。

1 子どもと単元について

子どもたちは、「話すこと・聞くこと」の学習として、「こんないしをみつけたよ」「おはなしきいて」では話すのに必要な事柄を集めたり話題を選んだりして話すことを学習している。また、「ふたりでおはなし」「なんていったらいいのかな」では一対一のやり取り、「おはなしきいて」では一対複数人での話合いの学習形態を経験している。これらの学習を通して，子どもたちは日常の授業場面においても，話すべき事柄を事前に準備して話したり，話題からそれずに話し合ったりすることができるようになってきている。

中心学習材「これは，なんでしょう」は，出題者が当ててほしいものの特徴をとらえて伝え，回答者がその特徴を基に答えを考えるというゲームを取り入れた内容になっている。ものの特徴をとらえることを通して，対象物をよく見て観察したり，「大事なこと何か」を考えたりすることができる。また，答えを引き出すために質問することを通して，相手から与えられる情報を正しく聞き取り，分からないことや更に詳しく聞きたいことを尋ねる力がついていくと考えられる。本単元は，これらの話し合いに大切な要素を，ゲームという形式を通して楽しみながら自然に学ぶことができる学習材であると考えられる。

指導に当たっては，次の三つを大切にする。一つ目は，自分たちで問題を作ったり答えたりしたいという，子どもの意欲を引き出すことである。そのために，出題内容を「自分の好きなもの」とし，単に答えを当ててではなく“自分の好きなものを知ってもらいたい”“友達の好きなものを知りたい”という思いをもつことができるようにする。また，みんなで作ったクイズをまとめてクイズブックを作るという見通しをもつことで，問題を作る意欲をもつことができるようにする。二つ目は，出題者が適切なヒントを出したり，回答者が答えを引き出すような質問をしたりすることができるようにすることである。そのために，「大きさ」「色」「形」等のものの特徴を表す視点を与え，この視点を基にヒントを出したり質問をしたりすることができるようにする。三つ目は，話合いのルールを守ってゲームが円滑に行われるようにすることである。そのために，モデルを提示してゲームのやり方をイメージすることができるようにしたり，話型や適切な声の大きさに留意した話し方や情報を正しく聞き取る聞き方の約束を掲示したりしてルールを確認し，どの子どもも楽しくゲームを行うことができるようにしたいと考える。

2 単元の指導目標

- 問題を作って話したり答えたりすることを楽しもうとしている。【関心・意欲・態度】
- ◎身近なところから題材を決め，特徴を洗い出して問題を考えることができる。【話すこと・聞くこと ア】
- ◎相手を見て話したり聞いたりし，問題について答えを特定していくための質問をしたり，質問に適切に答えたりしながら話題に沿って話し合うことができる。【話すこと・聞くこと オ】
- 物の特徴を表す言葉を理解することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ウ)】

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
○自分の好きなものから問題を作って話したり，友達の作った問題に答えたりすることを楽しもうとしている。	◎自分の好きなものから問題を決め，その特徴を洗い出して問題を考えている。 ◎聞き手の方を見て話したり，話し手の方を見て最後まで問題を聞いたりし，問題について答えを特定していくための質問をしたり，質問に適切に答えたりしながら話題に沿って話し合っている。	○物の特徴を表す言葉が分かり，それを使って話したり尋ねたりしている。

4 学習指導計画（全6時間）

【主な段階】

【主な学習活動】

【主な活用】

第1次
「これは、なんでし
ょう」ゲームの手順
が分かり、学習の見
通しをもつことがで
きる。
(1時間)

- ① 教師が出すクイズに答えたり、モデルのCDを聞いたりしてゲームの手順を理解し、単元の学習の見通しをもつ。

<評価> _____

- ① ゲームの手順を理解し、問題を作って話したり答えたりすることを楽しもうとしている。
《観察・発言》

第2次
ものの特徴からヒントを考
えて、ゲームの問題を作
ったり問題を出す練習を
したりする。
(3時間)

- ② モデルのCDを聞いて、クイズの手順やクイズを出すときの話し方や聞き方について学ぶ。
③ モデル例から問題の作り方を理解し、当ててほしいものの特徴を書き出して、ヒントにすること考えながらワークシートに問題の文と答えの絵をかく。
④ ペアでクイズを出し合い、ものの特徴をとらえた尋ね方や答え方の練習をする。

<評価> _____

- ② モデルの例を聞き、クイズの手順や出題の仕方、質問の仕方を考えている。
《観察・発言》
③ 当ててほしいものを決め、「大きさ」「形」「色」等の特徴や出題の仕方を考えながらクイズの問題を作っている。
《ワークシート》
④ 相手に分かりやすく話したり、自分の知りたいことを尋ねたりしながらペアでクイズを出す練習をしている。
《観察》

モデルで学んだ話し方の手順や、話し方や質問の仕方を生かして、ペアで話し合いの練習をする。

第3次
「これは、なんでし
ょう」ゲームをする。
(2時間)

- ⑤ ゲームの約束を確かめ、3人組で「これは、なんでしよう」ゲームをする。
⑥ 前時の振り返りを生かし、メンバーを変えて「これは、なんでしよう」ゲームをする。活動を振り返り、感想を交流する。
(本時)

<評価> _____

- ⑤⑥ 問題をよく聞いて他の聞き手と重複しないように質問をしたり、適切な質問に答えたりしながら「これは、なんでしよう」ゲームをしている。
《観察・ワークシート》
⑥ 単元のめあてを基に、がんばったことや、できるようになったことなどを振り返っている。
《発言・ワークシート》

第2次で学んだ話し方や質問の仕方を生かして「これは、なんでしよう」ゲームをする。

【国語科活用場面】

- 必要な事柄を集めて話す。適切な質問を考える。
(「あったらいいなこんなもの」)
【他教科等・日常活用場面】ものの特徴をとらえる。

5 本時の指導

(1) ねらい

前時の振り返りを生かして「これは、なんでしょう」ゲームを行い、適切に尋ねたり、答えたりしながら話題に沿って話し合うことができる。

(2) 基礎的・基本的な知識・技能を活用する言語活動

第2次までの学習では、「これは、なんでしょう」ゲームを行うために、ものの特徴をとらえて問題を作って出題したり、更にその特徴を尋ねて回答したりする練習をペアで行った。本時はその知識・技能や前時の振り返りを生かして、3人の小グループになってゲームを行う。

(1) 展開

学習活動	学習内容	指導の手立てと評価
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>3にんグループで、「これはなんでしょう」クイズをしよう。</p>		<p>○単元における本時の位置付けを確かめながら、学習課題の確認を行い、学習の見通しや意欲をもつことができるようにする。</p>
<p>2 学習課題を解決する。</p> <p>(1) クイズの手順や約束を確かめる。</p> <p>(2) 3人グループで「これは、なんでしょう」クイズを行う。</p> <p>(3) 話し合いの様子について交流する。</p>	<p>○もんだいのだしかた</p> <p>・「わたしのすきな○○をあててください。(ヒントをひとつ)これは、なんでしょう。」</p> <p>○クイズのやりかた</p> <p>①もんだいをだす。 ②しつもんをする。(ひとり二つとする) ③しつもんにかたえる。 ④ふたりのしつもんがおわってからこたえをいう。 ⑤「あたりです。」「ごんねんでした。」といって、こたえをみせる。</p> <p>○やくそく</p> <p>・おしまいまでよくきく。 ・こたえをしつもんしない。 ・おなじしつもんをしない。</p>	<p>○クイズを円滑に進めることができるように、掲示してあるクイズの手順や約束を確かめることで全員が本時の学習の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○前時までとは違い、「できる質問は一人二つ」であることを知らせる。質問の回数に制限を付けることで、どんな質問をしたら早く答えを導き出すことができるか考えることができるようにする。</p> <p>○ものの特徴の観点を記したワークシートを使い、自分が尋ねたことをチェックしながら話題に沿って話し合いを行うことができるようにする。</p> <p>○上手なヒントの出し方や、質問の仕方について全体で話し合う。</p> <p>〈評価〉 出題者の好きなものについて、知りたいことを適切に尋ねたり、それに答えたりしながら3人で話し合っている。 【話し合いの様子・ワークシート】</p>
<p>3 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 自己評価をする。</p> <p>4 単元の学習を振り返る。</p>		<p>○本時の学習で学んだクイズの手順や話し方・聞き方の約束を観点としてワークシートを使ってチェックできるようにする。</p> <p>○本単元で身に付けた力を確かめ、これからの学習や日常の生活場面でも、観点を意識してものの特徴をとらえたり話題に沿って話したりしようとする意欲をもつことができるようにする。</p>